

## 2) 県下におけるコイヘルペスウイルス病の発生状況とまん延防止について

太田豊三、水産試験場担当、水産課担当

### 【目的】

霞ヶ浦・北浦のコイ養殖において 10 月中旬頃からコイのへい死が続いた。この原因として、持続的養殖生産確保法の「特定疾病」に指定されているKHV病によるものと、11月に入って国・茨城県により確認された。これを受け、まん延防止のために、県のKHV検査体制を整えて、県内で取扱われているコイで同病の発生がないかの調査を行うとともに、引き続き、天然水域等での発生状況の調査を実施した。

### 【方法と結果】

- ・ 県内のコイ取扱い業者に、コイの入荷状況とそのコイの異常の有無等を聞くとともに、10月以降に霞ヶ浦から購入されたコイの検体(8業者のコイ 18尾分：いずれも健康で異常なし群)を収集し、養殖研にKHV検査を依頼。18検体中 5検体(養殖業者 1業者、卸売り業者 3業者)で陽性。後日、さらに 2業者で「陽性」確認。コイの処分と池の消毒措置。
- ・ 個人宅のニシキゴイで異常へい死があり、「陽性」と確認。さらに後日、公園内の湧水池(水温 15℃前後)でへい死ニシキゴイが「陽性」。両者のコイ等全量を処分要請。
- ・ 大津市瀬田川でへい死のマゴイが「陽性」。県内の天然水域で初確認。天然かどうかは不明。以後、同河川域のへい死コイ計 18尾で「陽性」。
- ・ 南湖と瀬田川で漁獲された 37尾のコイはKHV「陰性」。
- ・ 本県の天然水域等における発生状況のまとめ (H16.3月末現在)

検査尾数 201尾中、KHV陽性 28尾(食用養殖コイ 7,へい死ニシキゴイ 3,瀬田川へい死コイ 18)

### 【まとめ】

霞ヶ浦のコイ養殖でコイヘルペスウイルス(KHV)病が発生したことを受け、県内に同病の発生がないかを調査した。その結果、霞ヶ浦から入った一部の食用養殖コイにおいてKHVが確認されるとともに、瀬田川付近で発見されたへい死コイ 18尾と 2カ所の観賞用飼育池でへい死したニシキゴイでKHVが検出されたが、その感染経路は不明である。今後の課題として、湖水温上昇期に、天然水域の巡回調査と琵琶湖に生息する魚類を対象に、KHV検査を定期的実施することが重要である。

表1. 滋賀県におけるコイヘルペスウイルスの検査状況 (H16年3月末現在)

検 査 対 象		検 数	陽性数	備 考
食用コイの取扱い業者(養殖、卸・加工等)		55	7	6業者で確認(法適用)
ニシキゴイ取扱い業者		10	0	
愛好家、自治会、公園等の水路や鑑賞池		33	3	陽性は全てニシキゴイ
瀬田川水域	へい死コイ	22	18	
	漁獲コイ	20	0	
琵琶湖(南湖)	へい死コイ	5	0	
	漁獲コイ	23	0	
琵琶湖(北湖)	へい死コイ	1	0	
	漁獲コイ	8	0	
その他(内湖、沼、小河川、港内等)		24	0	内、漁獲ゴイ6
合 計		201	28	